

### Ⅲ 障がい児者福祉施設の結果

## 1 利用者の年齢区分

図表1 施設利用者数

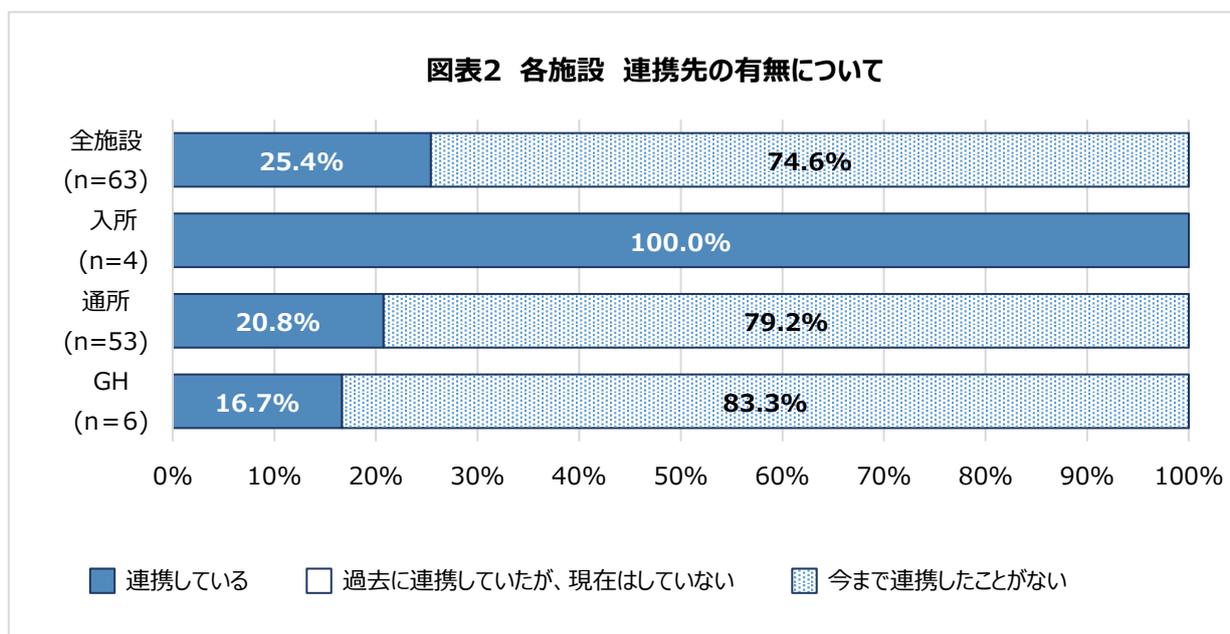
単位：上段人数（人） 下段割合（％）

	回答施設数	利用者総数	18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上
全施設	63	1,502	427 28.4	890 59.3	185 12.3
入所	4	196	19 6.7	131 74.7	46 18.6
G H	6	89	0 0.0	82 92.1	7 7.9
通所施設	53	1,217	408 33.5	677 55.6	132 10.8

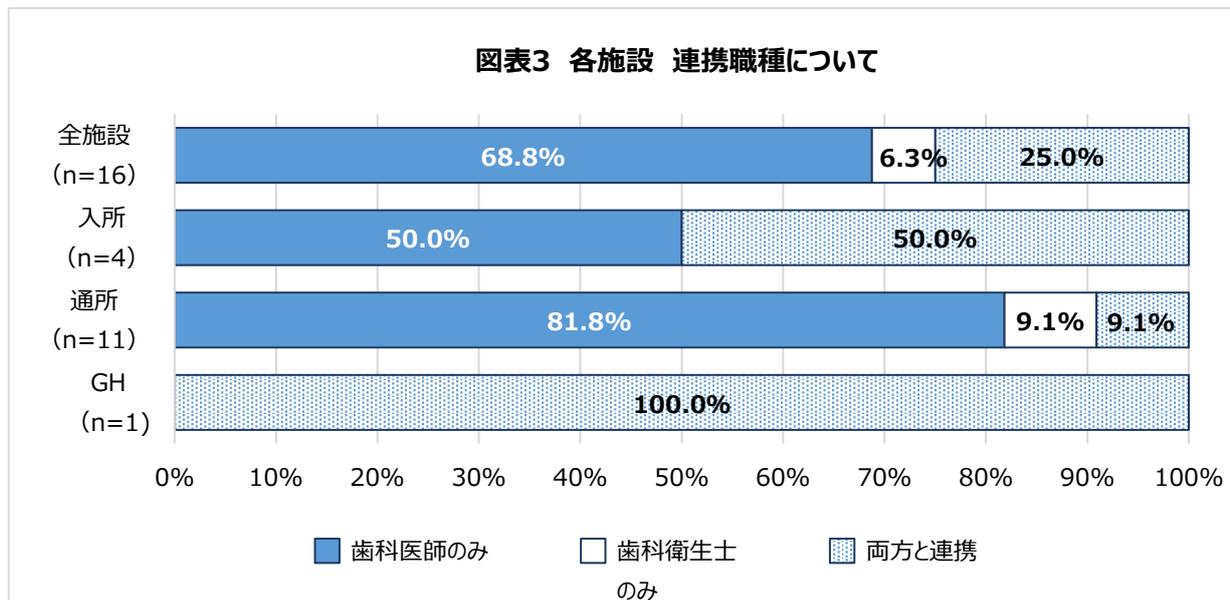
## 2 歯や口腔の健康管理に関する状況

(1) 利用者の歯科検診や口腔ケア等についての歯科医療従事者との連携について

連携について、入所は「連携している（100.0%）」、通所施設は「今まで連携したことがない（79.2%）」が一番多いです。

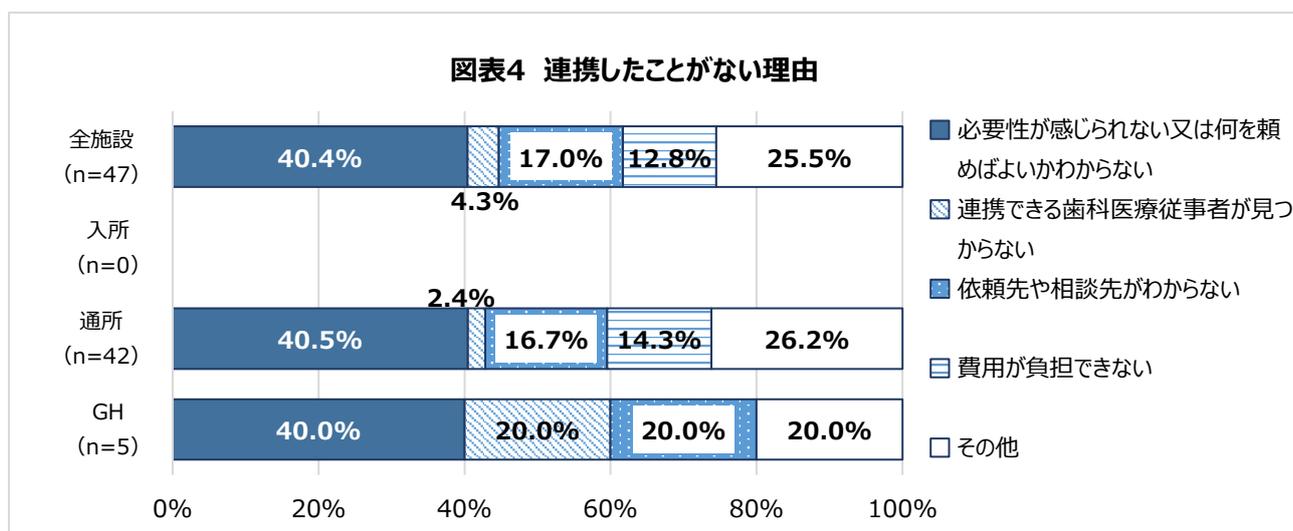


連携職種については「連携している」と答えた内、入所は「歯科医師のみ（50.0%）」「両方と連携（50.0%）」、通所施設については「歯科医師のみ（81.8%）」が一番多いです。



(2) (1) の連携をしていない理由について

連携していないと答えた施設のうち、入所は 100.0%連携しているため回答なし、通所施設では「必要性を感じられない又は何を頼めばよいかわからない（40.5%）」の回答が多いです。その他の記載では、通所施設のみ回答があり、「利用者に任せている」という内容が多いです。



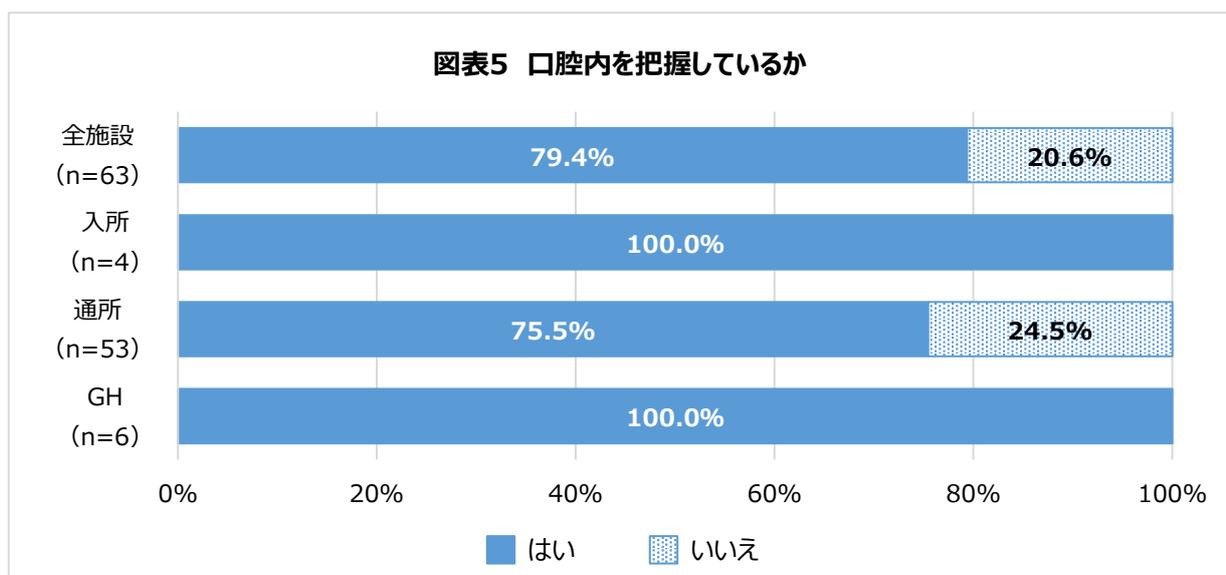
### 【その他 記載内容】 通所施設のみ回答あり

- ・必要に応じて歯科受診を助言することもあるが、個人の判断に任せている。
- ・各家庭で利用者を通院させているため。施設で気が付けば家族に知らせる。
- ・日中支援の事業所なので基本的には通院、治療行為は家族及びグループホームの支援者さんが行っているため。
- ・看護職員が充実しているため、口腔ケアへの実施も出来ていることから、必要性が感じられない。
- ・必要性は感じるが、利用者や支援員からの提案がない。

### (3) 利用者の歯や口腔の管理状況について

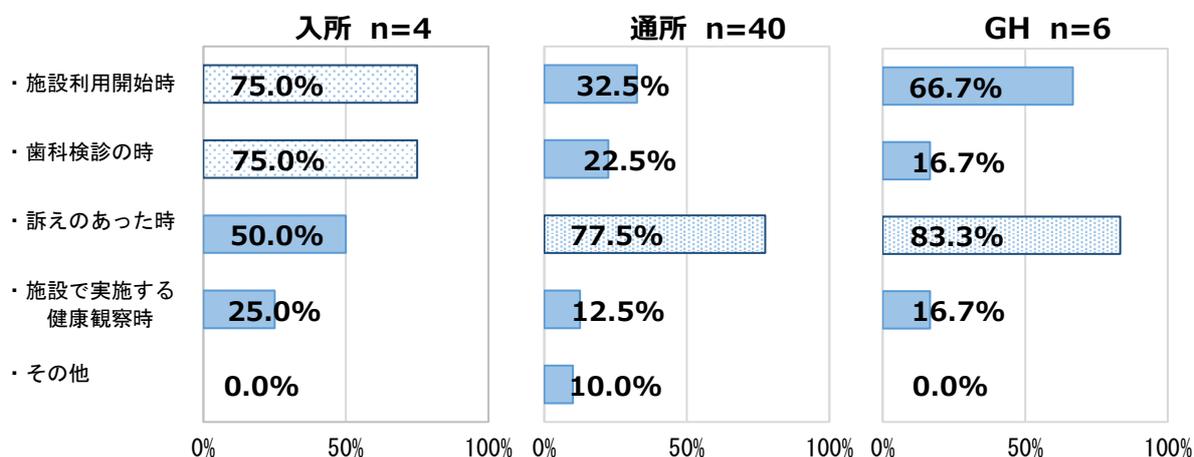
#### ①把握時期について（複数回答）

入所は 100.0%、通所施設は 75.5%の施設は、利用者の口腔内の状況を把握しています。



把握しているうち、各施設の口腔内の把握時期で一番多いのは、入所は「施設利用開始時（75.0%）」、「歯科検診の時（75.0%）」です。通所施設では、「訴えのあった時（77.5%）」です。

図表6 利用者の口腔管理状況の把握時期について（複数回答）

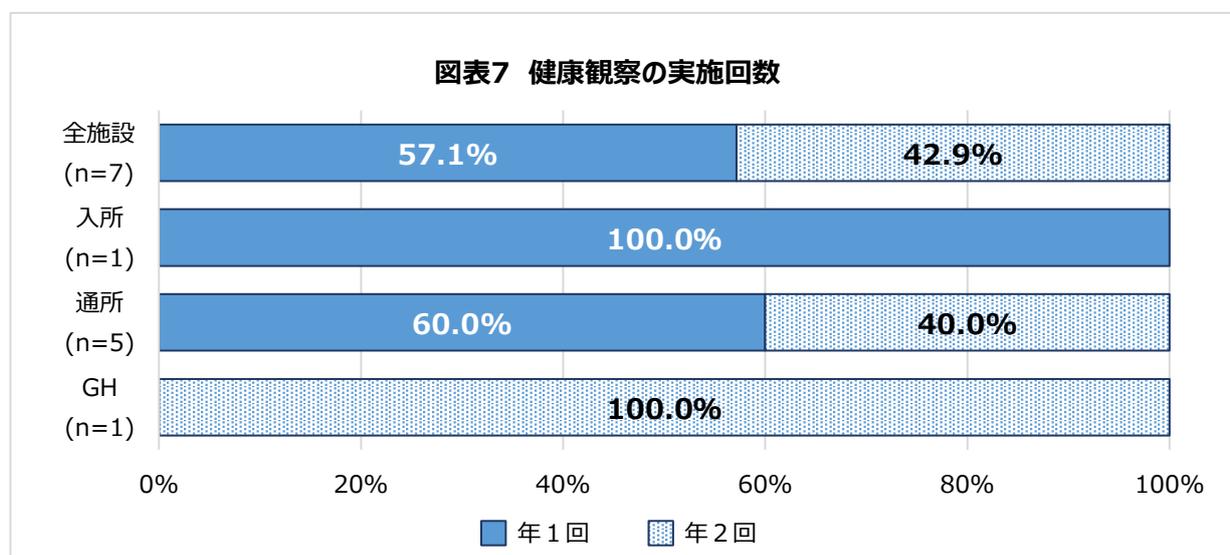


【その他 記載内容】 通所施設のみ回答あり

- ・食事指導や歯みがき指導など、気づいた時。
- ・学校での歯科検診や各家庭での定期受診後に適宜聴取。

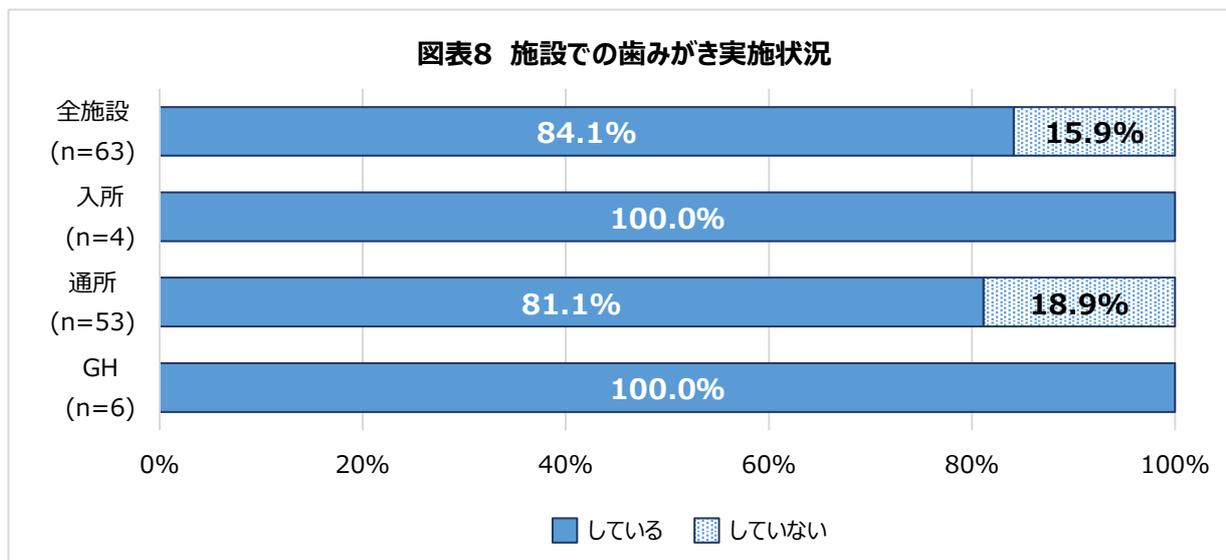
【健康観察の実施回数について】

健康観察を実施している施設において、その実施回数を質問しました。一番多いのは、入所は「年1回（100.0%）」、通所施設も「年1回（60.0%）」です。



②施設内での歯みがきについて

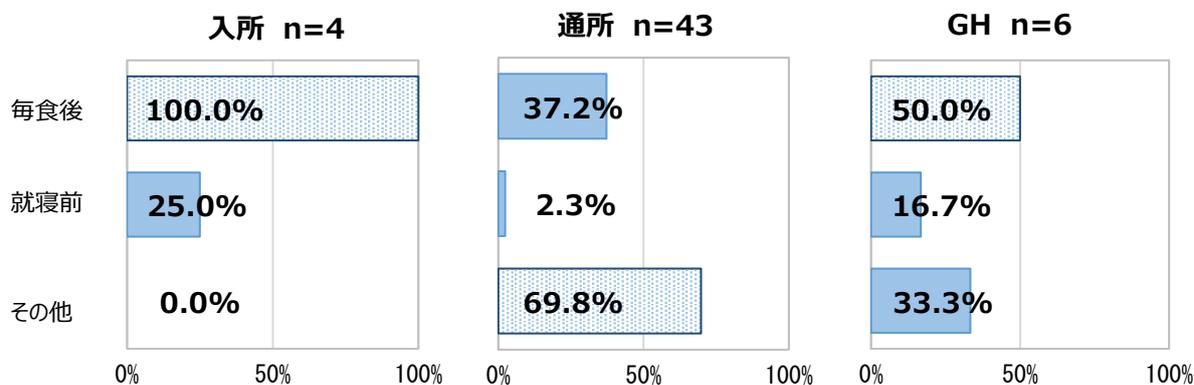
入所は 100.0%実施、通所施設は 81.1%実施しています。



ア) 1日の中で歯みがきを実施する時期

施設で歯みがきを実施している施設の内、実施する時期は、入所が「毎食後 (100.0%)」、通所施設は「その他 (69.8%)」が一番多いです。通所施設の「その他」の回答では「昼食後」が多いです。

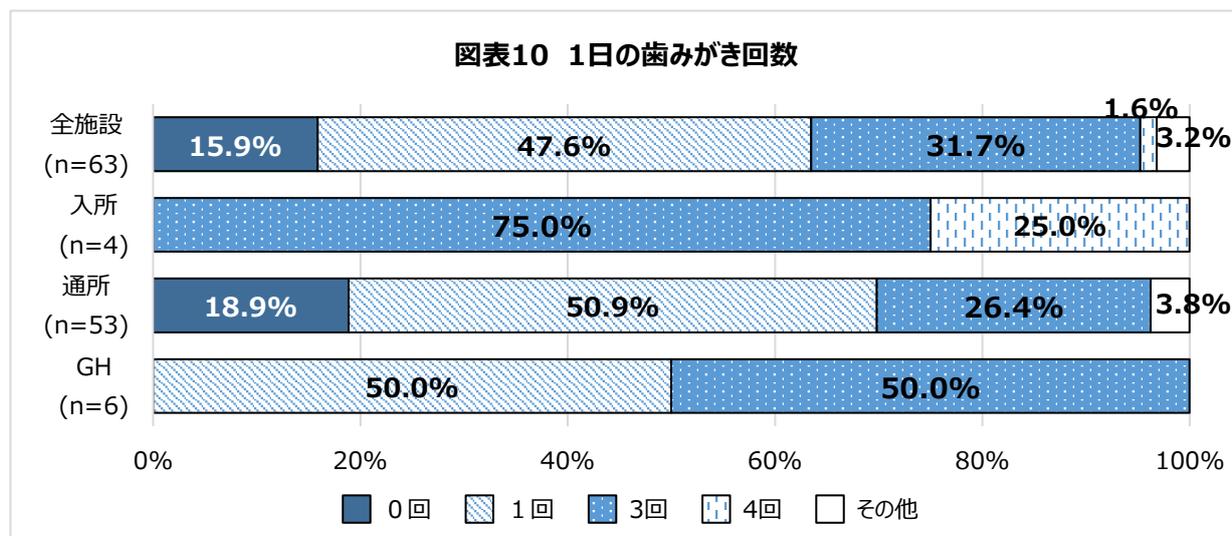
図表9 1日の歯みがきを実施する時期 (複数回答)



【その他 記載内容】

	内訳	回答内容
通所	29	昼食後
	3	おやつの後
	1	できる人は毎食後
GH	1	各自に任せている
	1	利用者ごとに違うタイミング

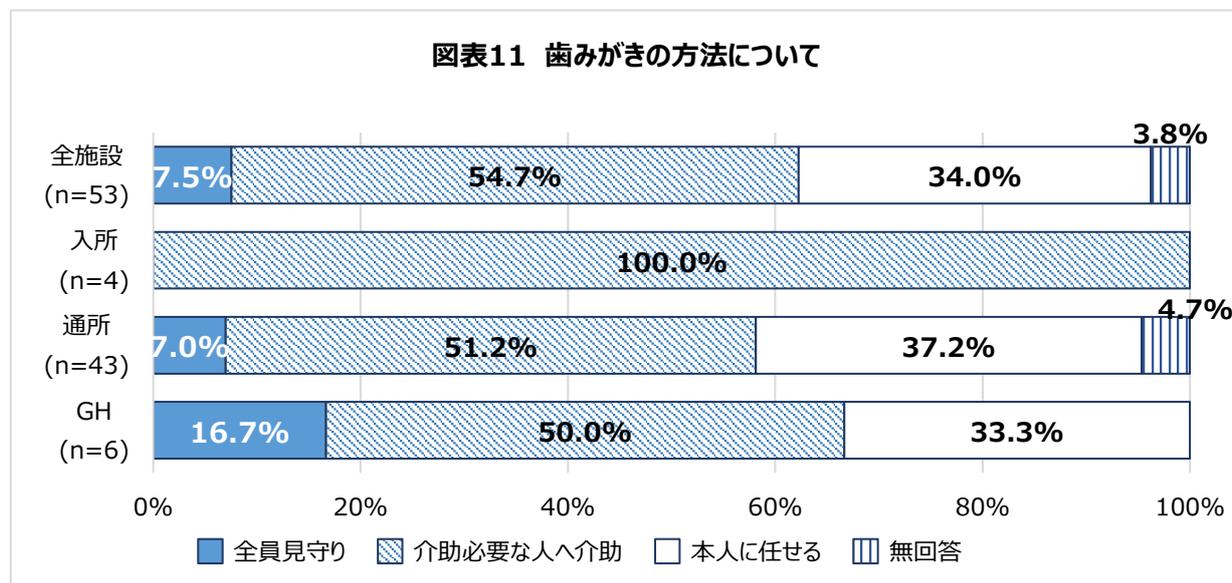
実施回数は、入所が「1日3回(75.0%)」、通所施設は「1日1回(50.9%)」が一番多いです。



- 1回 就寝前又はその他
- 2回 就寝前かつその他
- 3回 毎食後
- 4回 毎食後かつ就寝前、または毎食後かつその他

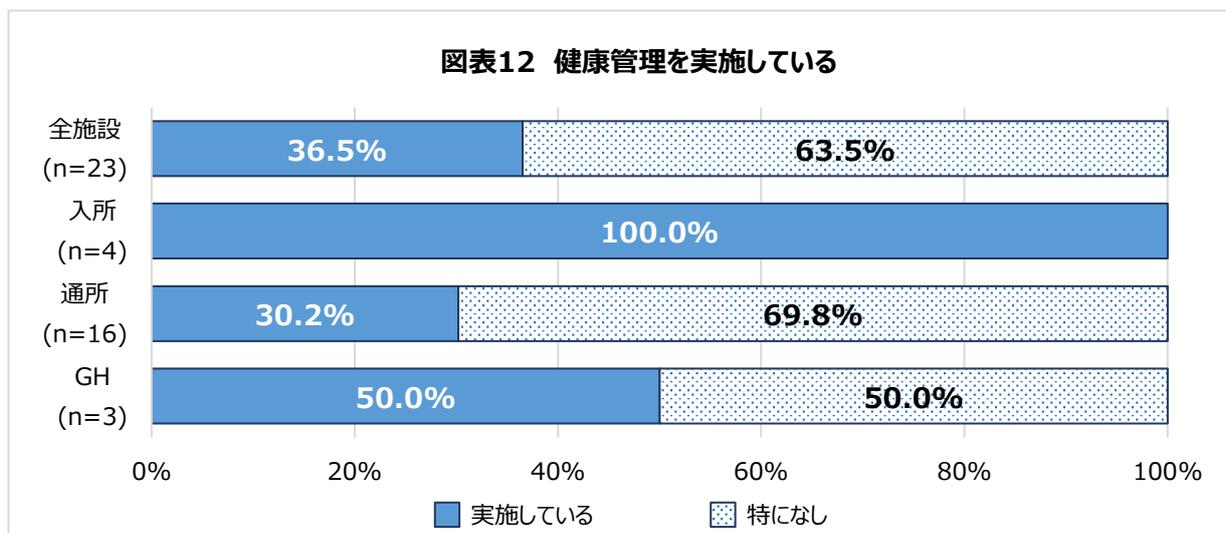
イ) 歯みがきの方法について

入所は「介助必要な人への介助(100.0%)」、通所施設は「介助必要な人への介助(51.2%)」が一番多いです。



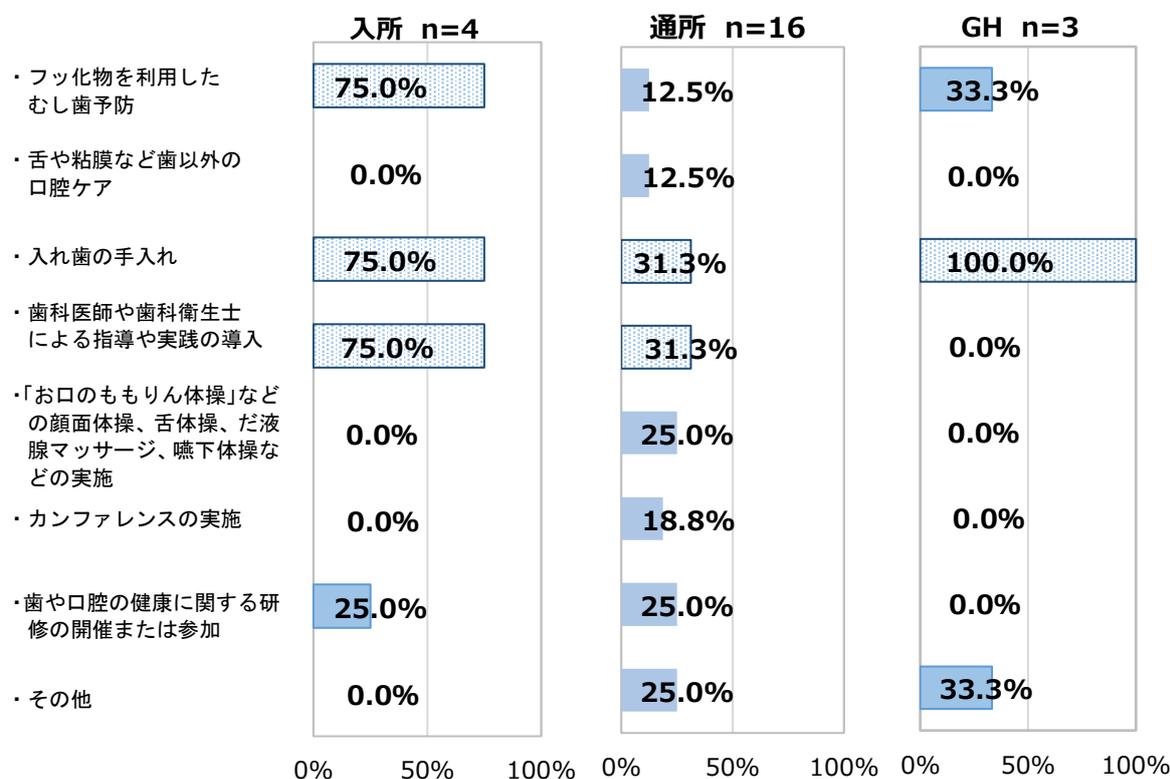
③歯みがき以外の歯や口腔の管理について現在実施していることについて

入所では 100.0%、通所施設では 30.2%、歯みがき以外の歯や口腔の管理を実施しています。



実施している内容は、入所が「フッ化物を利用したむし歯予防 (75.0%)」「入れ歯の手入れ (75.0%)」「歯科医師や歯科衛生士による指導や実践の導入 (75.0%)」、通所施設は「入れ歯の手入れ (31.3%)」「歯科医師や歯科衛生士による指導や実践 (31.3%)」が一番多いです。

図表13 歯みがき以外の歯や口腔の健康管理について現在実施していることについて (複数回答)



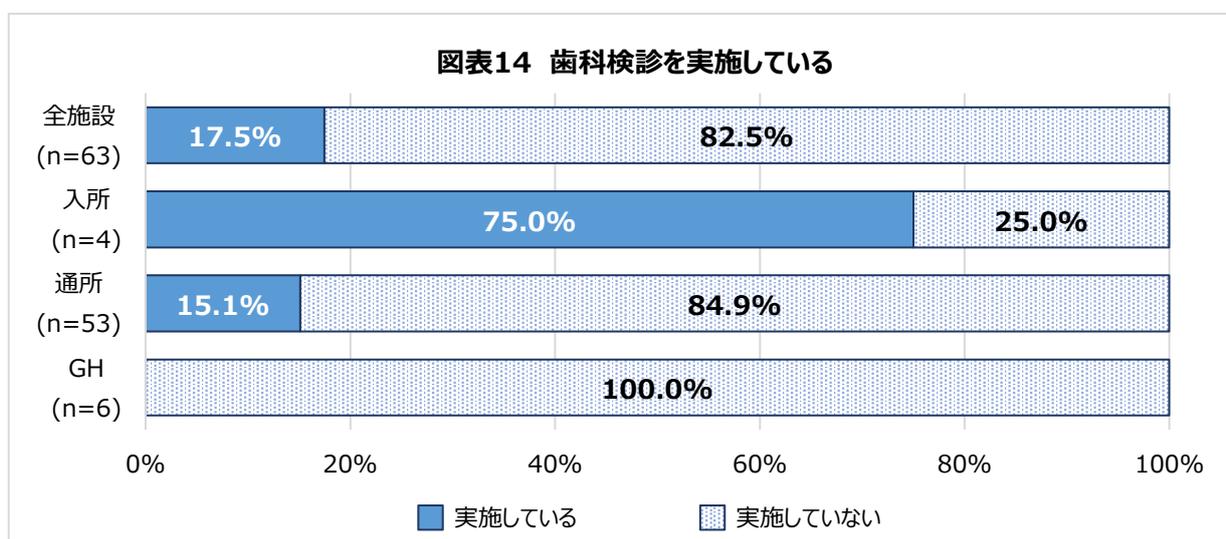
【その他 記載内容】

通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯みがきの支援や、歯ブラシ取り替え時期の声掛け、歯ブラシの消毒。</li> <li>・ 管理については、利用者さんの家族に任せております。</li> <li>・ 他事業所併用児童について、必要に応じて状況及び支援内容の共有。</li> <li>・ 歯科通院が必要と思われる児童については、保護者に伝え受診を促す。</li> <li>・ 言語聴覚士が利用児の口腔の状態を評価し、適切な食事形態・介助方法の検討、指導。 数名の児童に対しては口腔内のマッサージや筋刺激訓練を実施。</li> <li>・ 定期的に歯の大事さ、歯の健康を伝える手紙や通知を出している。</li> </ul>
GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口腔ケアの声掛け・確認、職員間での情報共有。</li> </ul>

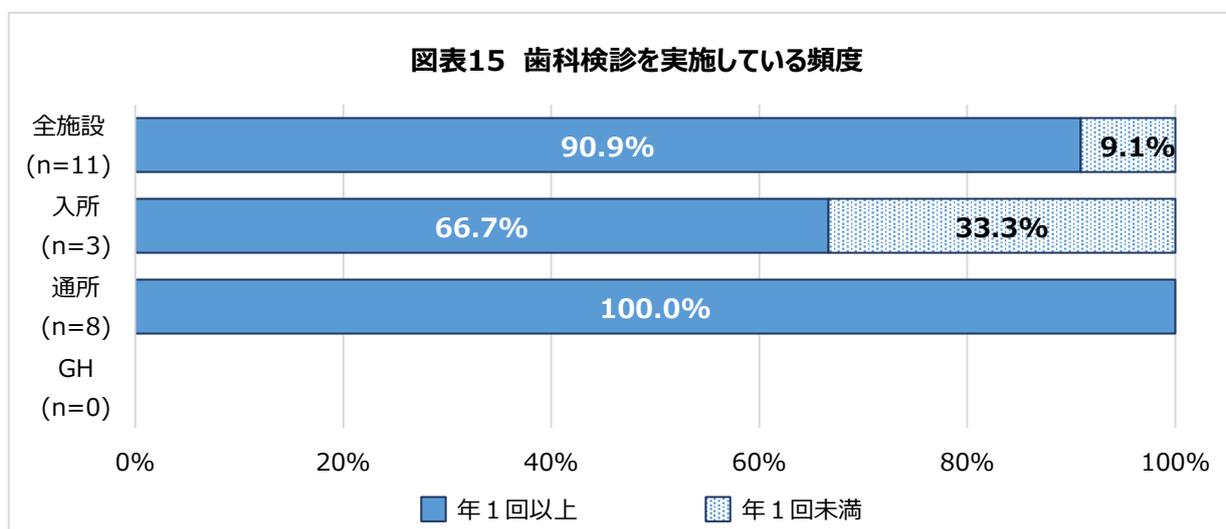
④施設における歯科検診について

ア) 頻度について

入所は 75.0%、通所施設は 15.1% 歯科検診を実施しています。

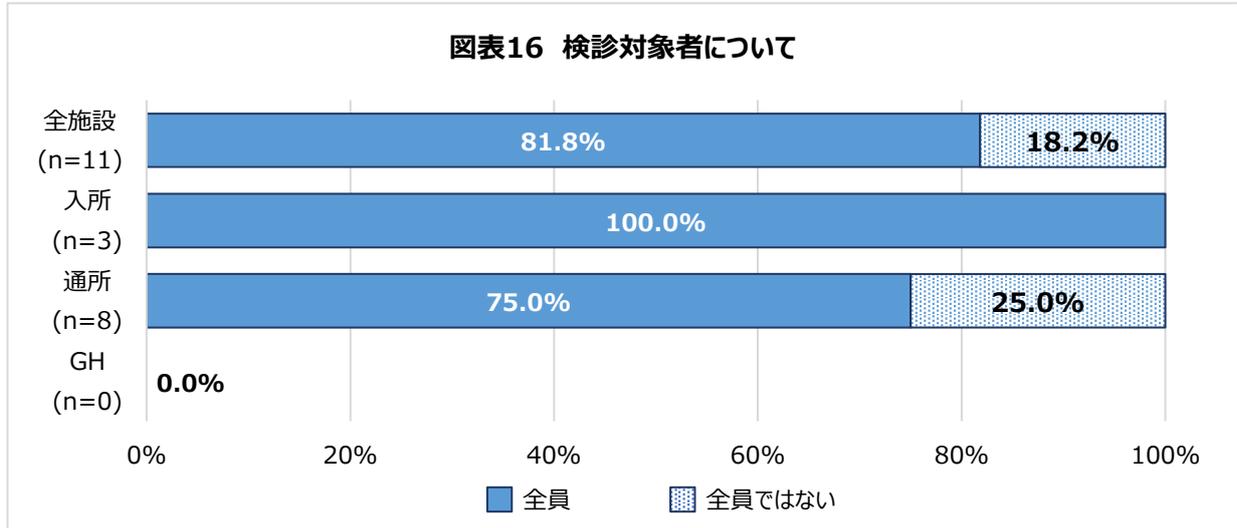


実施しているうち、入所が「年1回以上実施 (66.7%)」、通所施設は「年1回以上 (100.0%)」の頻度で歯科検診を実施しています。



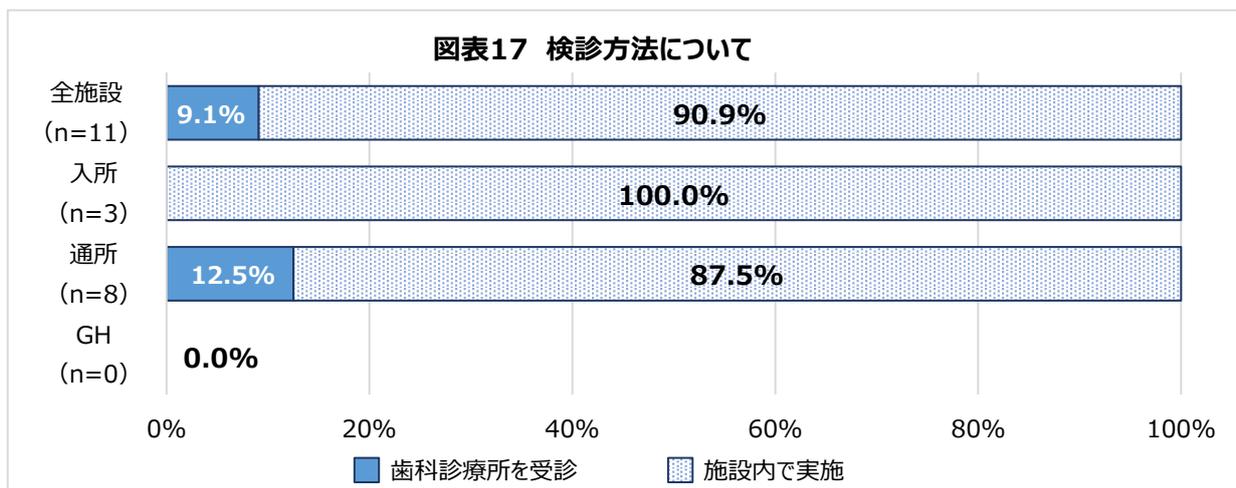
## イ) 検診対象者について

全員を検診対象にしている割合は、入所は100.0%、通所施設が75.0%です。  
通所施設の対象者の選別基準は、「検診日に施設を利用する方のみ」、「障がいの程度により違う」です。



## ウ) 検診方法について

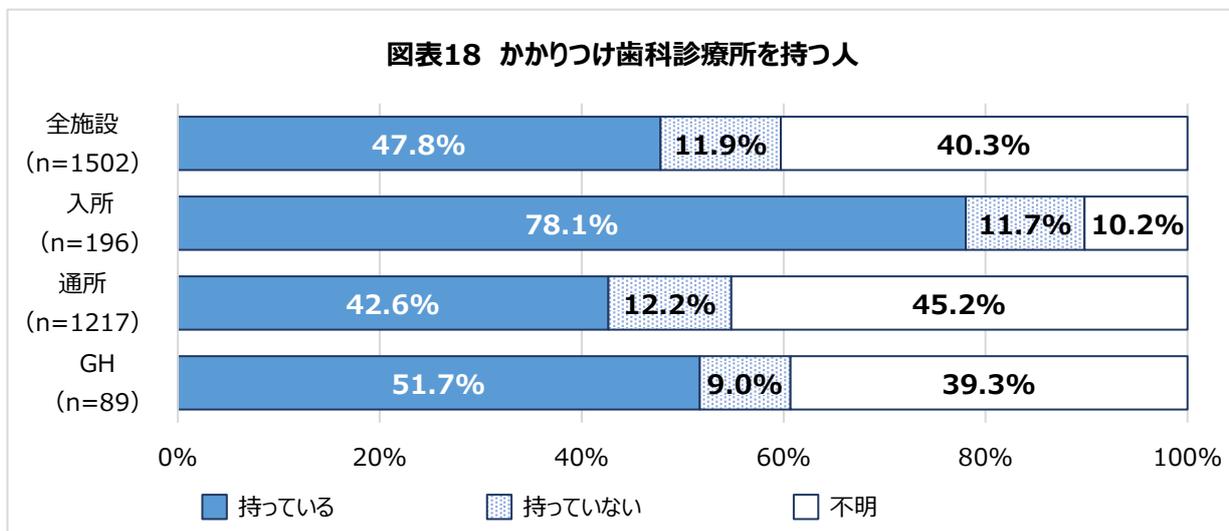
検診を実施している施設のうち、入所は「施設内で実施 (100.0%)」、通所施設は「施設内で実施 (87.5%)」が多いです。



⑤利用者の歯科受診状況について

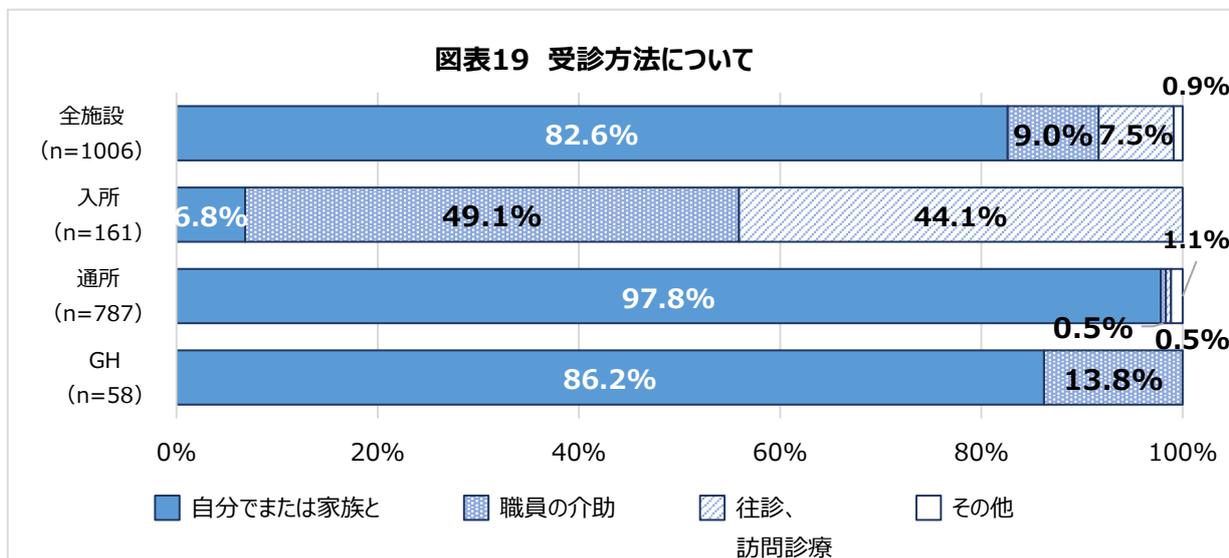
ア) かかりつけ歯科診療所を持つ人は何人いるか

入所では「持っている（78.1%）」、通所施設では「持っている（42.6%）」です。



イ) 受診方法について

入所では「職員の介助（49.1%）」が多く、通所施設では「自分でまたは家族と（97.8%）」が多いです。

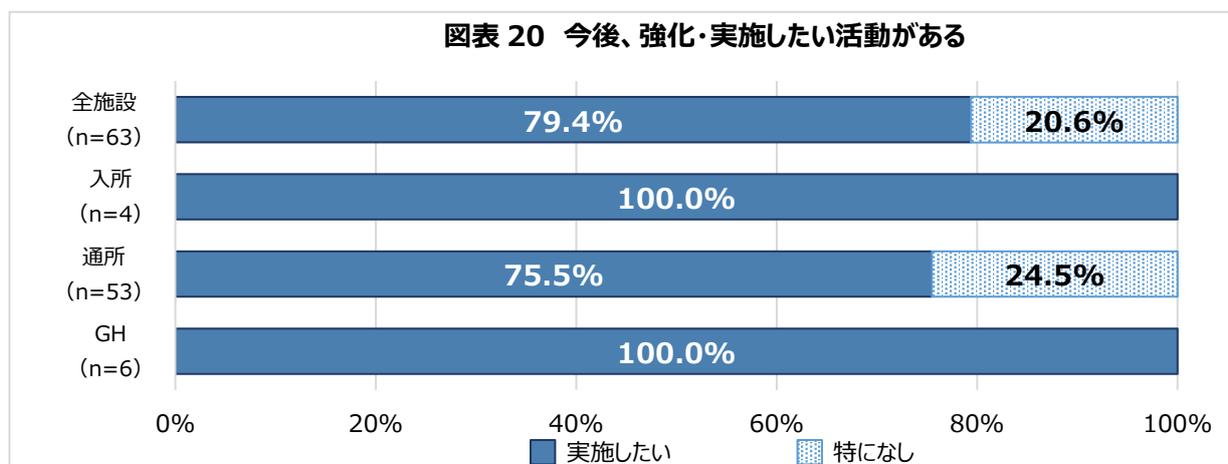


【その他 記載内容】 通所施設のみ回答あり

- ・グループホームの職員または、家族が連れて行っている。人数の内訳は把握していない。
- ・歯科受診については把握していない。
- ・ヘルパーの介助で受診。

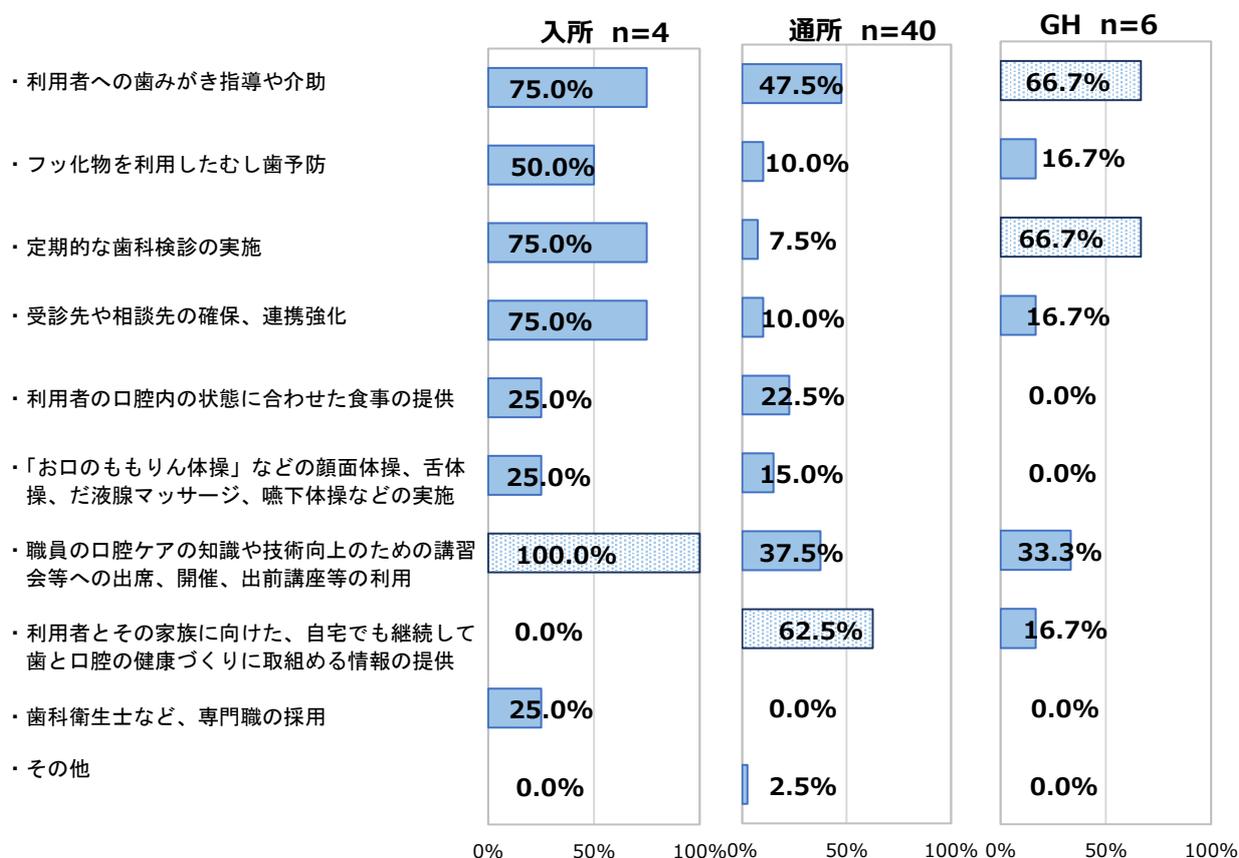
(4) 利用者の歯や口腔の健康管理のため、今後強化したい、または取り入れたい活動について

入所は 100.0%、通所施設は 75.5% 今後、強化したい、または取り入れたい活動があります。



内容で一番多い回答は、入所が「職員の口腔ケアの知識や技術向上のための講習会等への出席、開催、出前講座等の利用(100.0%)」、通所施設では「利用者とその家族に向けた、自宅でも継続して歯と口腔の健康づくりに取組める情報の提供(62.5%)」です。

**図表 21 今後強化したい、または取り入れたい活動について (複数回答)**



**【その他 記載内容】** 通所施設のみ回答あり

・養育の中で食事(おやつ)を取ることを、行っていません。

### 3 施設において歯科口腔保健を進めていく上で課題となること（自由記載）

各施設において課題となることについて入所が3施設から3件、通所が35施設から39件、GHが4施設から4件の回答がありました。回答内容を分類した結果は下表のとおりです。

NO	項目	入所		通所		GH	
		件数	順位	件数	順位	件数	順位
1	口腔ケアについて	0	-	3	7	3	1
2	摂食嚥下について	0	-	0	-	0	-
3	施設の現状について	2	1	6	3	0	-
4	連携について	0	-	3	6	0	-
5	職員の資質向上について	1	2	4	5	0	-
6	利用者と家族について	0	-	6	3	0	-
7	歯科検診や受診について	0	-	10	1	1	2
8	その他	0	-	7	2	0	-
合計		3		39		4	

以下に主な意見を抜粋し、掲載しました。

口腔ケアについて	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口を開けられない方もいらっしゃるためそのような際の対応の仕方。</li> <li>・口臭の気になる利用者が一定数おり、本人も気づいていないケースが多い。問題意識を持ってもらうために、本人に“何を” “どのように” 伝えるか、難しさを感じている。</li> <li>・昼食後の歯みがきを推奨してもしない利用者もおり、歯みがきの重要性を伝える事。</li> </ul>
	GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきに拘りをもっている利用者への対応。 例えば、歯みがき時間が長い、途中で終わられないなど。</li> <li>・不穏時の歯みがき拒否。深夜の飲食（歯みがき無し）。</li> <li>・歯みがき指導及びむし歯予防。</li> </ul>
施設の現状について	入所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい特性上接触に過敏であったり、歯科受診経験が少なかったりすると、口周囲、口腔内を触れることを嫌がり施設内での対応に時間を有する。</li> <li>・歯を治療してもらう歯科医院はあるが、日頃の口腔の健康を保つための専門的な指導者がいないため、むし歯や歯周病の予防までいかない。</li> </ul>
	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援を行う作業所であり、口腔ケアまで行う時間的余裕がない。</li> <li>・通所の施設なので、昼食後の口腔ケアのサポートとなる。 就労継続支援事業所として、生活面にどのくらい時間をかけられるのか問題となっており、口腔ケアだけでなく、爪や頭髮ひげ、衣服等の衛生管理を家庭と連携して進めなければならない。歯科口腔保健を進める上で、事業所としてどのように関わっていくのか分からない。</li> <li>・歯科口腔の健康管理の情報を集め、施設で保管することが難しい。</li> <li>・児童一人一人に支援する場合の職員の割り振りや、人員配置について。</li> </ul>

連携について	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医療従事者との連携。</li> <li>・ 小規模施設なので、口腔ケアに特化した職員を採用することは難しいため、外部からの専門職の訪問指導などが受けられる機会があるとよい。またその際の費用負担も導入検討するうえでは大きな問題となる。</li> <li>・ 当事業所に通所している利用児は、歯科を含め、病院を受診することが課題となっている。視覚支援等で保護者と連携を取りながら対応しているが、定期的に事業所への情報提供をいただけるとありがたい。</li> </ul>
職員の資質向上について	入所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場職員のスキル。</li> </ul>
	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口を開けられない方もいらっしゃるためそのような際の対応の仕方。</li> <li>・ 職員の口腔ケアの知識や技術向上。</li> <li>・ 口臭の気になる利用者が一定数おり、本人も気づいていないケースが多い。問題意識を持ってもらうために、本人に“何を” “どのように” 伝えるか、難しさを感じている。</li> <li>・ 障がいを持つ児童・生徒の放課後の施設であるので、基本的には保護者の管理である。利用時のおやつの後など日々の歯磨き等については職員が介助するものの、意思疎通が困難な場合も多く、入念な歯磨きには至らないことが多いため、歯ブラシや口腔ケア用うがい薬などの使い方を覚えてもらうことを繰り返し行っているが、なかなか困難である。</li> <li>・ 言葉の遅いお子様の中には、口輪筋など顔の筋肉に課題のあるお子様もいる。今後、口腔体操など知識をつけていきたいと思う。</li> <li>・ 昼食後の歯みがきを推奨してもしない利用者もおり、歯みがきの重要性を伝えること。</li> </ul>
利用者と家族について	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員 口腔ケアの重要性について理解しており、ケアにも力を入れているが、自宅ではなかなか難しい利用者もいる。ケアのために情報共有も難しい。</li> <li>・ 利用者やご家族からの希望があることが前提となります。</li> <li>・ 定期的に（年1回）な歯科検診の実施を考えたいが、家族等への費用負担をお願いすることを考慮すると、利用者さん（家族を含めて）の自主性にお任せするほかないと考えています。</li> <li>・ ご家庭と事業所の間で、どこまでこちらが助言してよいか悩む。</li> <li>・ 私共は 18 歳以下の児童が対象の施設ですので、各学校でもそのような講習を行っているとしますし、基本的には保護者の方にお任せしている現状です。著しく口内や歯の状況が悪化していると見受けられる場合には、保護者の方に伝え歯科受診を勧めていますが、強制はできませんので、保護者の方の意識を高める方法が分かれば、と思います。しかしながら、その方法もなかなか情報がないので伝えられない状況です。</li> <li>・ 就労B型の日中活動の為か、特別になにもしていないが、利用者の平均年齢も高くなってきたので施設から定期的に「歯の健康についてや、歯からくる病気」などのお知らせを配布している。また、歯科へはなんらかのトラブルがないと保護者や家族は動かない状態の方がほとんどである。保護者や家族の関心が薄いこともあり中々難しい。</li> </ul>

歯科検診や受診について	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科治療や定期検査を年2回お願いしているが、障がいを持った方への治療を行って頂ける歯科が少なく、家族の足が遠のいている。</li> <li>・ 施設の囑託医による歯科検診を年1回実施し、検診結果を各家庭にお知らせするが通院して治療をしてくださる方となかなか通院治療につながらない方がいらっしゃることに。</li> <li>・ ほとんどかかりつけ歯科診療所をもっているが、この先親が通院させることができなくなる場合も考えられる。その時にどうしたらよいか。</li> <li>・ 障害の有る利用者は、特定の歯科にしか通えないので困る。</li> <li>・ 本施設（事業所）に通所している利用児（自閉症傾向等）は、歯科を含め、病院を受診することが大きな課題の一つである。課題解決のために「病院の受診の仕方」等について、本事業所の公認心理士より保護者宛の研修（視覚支援等）を実施している。今回の調査で「福島市障がい者歯科診療所」があることが分かったので、保護者に啓発していきたい。</li> </ul>
	GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、利用者様達に定期的な歯科検診などを受けていただき、歯科口腔環境を良好に保っていただくこと。</li> </ul>
その他	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナが収まったらまた昼食後の歯みがきを再開し、むし歯が増えないように事業所でも歯みがきチェックする。</li> <li>・ 生活保護の方が多いので、自己負担の課題、無料の定期健診等があるか不明。</li> <li>・ 現在まで年2回の歯科検診を行っていることで子どもたちの歯科診療がスムーズに受けられるなど成果があるため今後も継続したい。</li> <li>・ 障がいの内容や程度、家族の生活状況により、歯みがきなども大変なご家庭もあるかと思えます。それぞれに優先せざるを得ない状況が違うことを考慮した上で、今できることを保護者と一緒に考え、なるべく負担なく継続していけるような支援が大切だと思います。</li> <li>・ 歯科口腔の状態とネグレクトとの関係性が高いため、情報把握に慎重にならざるを得ない。ただ、それだけに重要であり必要性の高い課題である。</li> </ul>

#### 4 利用者の歯や口腔の健康のため、専門職に望むこと（自由記載）

各施設において課題となることについて入所が3施設から3件、通所が24施設から27件、GHが3施設から3件の回答がありました。回答内容を分類した結果は下表のとおりです。

NO	項目	入所		通所		GH	
		件数	順位	件数	順位	件数	順位
1	口腔ケアについて	0	-	0	-	0	-
2	摂食嚥下について	1	1	1	4	0	-
3	情報提供・研修会について	0	-	9	2	1	1
4	在宅時からの支援について	0	-	0	-	0	-
5	連携について	0	-	0	-	0	-
6	歯科検診や受診について	1	1	12	1	1	1
7	その他	1	1	5	3	1	1
合計		3		27		3	

以下に主な意見を抜粋し、掲載しました。

に 摂 食 嚥 下	入 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に食事ができるような口腔体操等。</li> </ul>
情報 提供 ・ 研 修 会 に つ い て	通 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの必要性や、歯の大切さ、歯みがきの仕方を分かりやすく教える教室など開いて欲しい。</li> <li>・利用者のための歯みがき講座などを、ボランティアでお願いできればと思います。</li> <li>・発達障害のお子様は、じっとしていることが苦手だったり、仕上げみがきをさせてくれないお子様もいるため、お子様のむし歯予防の方法など教えてほしい。</li> <li>・事業所への訪問指導。(利用児に対する指導、保護者に対する指導) 当事業所の利用者である重症心身障害児は、口腔内の様々な問題を抱えているケースも多い。かかりつけ医がいない・定期的な受診をしていない場合、専門家の介入は学校での歯科検診のみでのフォローとなるが、家庭内での口腔ケアに関して保護者にアドバイスできる環境が整っていないことが多い。個人レベルで受診・相談になると移動の負担なども考えハードルが高いと感じてしまう方もおり、事業所にて専門家に指導を受けられる機会が提供できると喜ばれるご家庭は多いと思う。</li> </ul>
	通 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の口腔ケアの知識や技術向上のための講習会や出前講座等の開催。</li> <li>・歯みがき介助の方法や口腔ケアについての情報提供。</li> <li>・障害児歯科を積極的に取り組んでいる歯科医院の情報が欲しい。</li> <li>・コロナの影響で、歯医者などの医療機関を利用することを、控える保護者がいらっしやるので、定期的な声掛けをして頂くことが、必要になってくると思います。</li> <li>・摂食についてのアドバイスが欲しい。</li> </ul>
	GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉課からのメールで情報共有なども、ありがたいです。</li> <li>・上記の専門職の方々からの、定期的な歯科検診などの案内があればありがたいと思いました。</li> </ul>
歯 科 検 診 や 受 診 に つ い て	入 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な定期的な訪問指導を切に願います。また、行政にはその橋渡しを望みます。</li> </ul>
	通 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家庭の状況により、通院しにくい方がいらっしやるため訪問治療をしてくれる歯医者さんが増えるとよいと思います。</li> <li>・歯科検診や口腔ケアについて無料で訪問してほしい。</li> <li>・放課後デイサービス事業への定期的な訪問。(歯みがき指導等・各学校さんでおこなっているような歯科検診など)</li> <li>・定期通院をしていない利用者の方が多いので、定期的に歯科検診などお願いしたい。</li> <li>・本人が自発的に歯科受診しても、何をどう指導されたのか理解が不十分で、その後の口腔ケアに活かされていない。メモに書いて渡すなどしてもらい、支援者の声掛けにつながるようにして頂きたい。</li> <li>・障害者専門の歯科医が増えれば良い。麻酔をかけないと治療出来ない利用者さんもいるので、もっと専門の歯科を増やしてほしい。 ※自力で通院できないケースがあるので、往診してくれると良い。</li> <li>・障がいの種類や程度による制限がない受診環境の整備を望みます。基本的なことという、車いすでも受診しやすい作りになっていることは最低条件だと思いますが、行動障害のある人でも安心して受診できる環境が整えられるかは難しい課題であり、地域の現状としては不十分だと言えるでしょう。</li> <li>・緊急の対応の時に、対処してほしい。</li> </ul>
	GH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な訪問歯科診療。</li> </ul>

その他	入所	・障がいがあり対応が難しいとは思いますが、気を長く持ち、対応して頂けたらと思います。 (他の子と違い、1回で全てが出来るわけではないので。)
	通所	・障害を持った方への理解。歯科治療が苦手な方や、治療後に気になってしまう方など様々な方がいらっしゃるの、本人さんに合わせた治療をお願い出来ればと思います。 ・気軽に相談ができるシステムがあると良いです。利用者が聴覚障害者なので、手話ができる人がいると安心できます。 ・障がいの内容や程度、年齢、家族状況などが異なる中で、歯科受診を含め、障がいのあるお子さんとそのご家族が、歯と口腔の健康を保つことは容易なことではないと感じます。お住まいの近くに安心して受診できる歯科医院がある、相談ができる歯科医師や歯科衛生士などがいる、このことが、障がいのあるお子さんとそのご家族の歯と口腔の健康にとって大切ではないかと思います。
	GH	・障がい特性に応じた対応。

## 5 コロナ禍により、口腔ケア等について状況が変化した点、苦労している点等について (自由記載)

各施設において課題となることについて入所が2施設から2件、通所が17施設から17件、GHが1施設から1件の回答がありました。回答内容を分類した結果は下表のとおりです。

NO	項目	入所		通所		GH	
		件数	順位	件数	順位	件数	順位
1	感染予防について	1	1	10	1	1	1
2	防護用具の調達について	0	-	0	-	0	-
3	摂食嚥下について	0	-	1	4	0	-
4	情報提供・研修会について	0	-	0	-	0	-
5	歯科検診や受診について	0	-	2	3	0	-
6	職員の不安について	0	-	0	-	0	-
7	その他	1	1	4	2	0	-
合計		2		17		1	

以下に主な意見を抜粋し、掲載しました。

感染予防について	入所	・感染対策を行いながらの口腔ケア。
	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のために、現在昼食後の歯みがきを取り止めている。そのため、朝、晩の歯みがきを家庭で行って頂いているが、みがき残しがある等の口腔衛生が保たれていない状態の方が見られる。又、マスクを着用されている事や歯みがきの介助の機会が減っている分、口腔内の確認ができず、歯のぐらつきや抜けてしまう方が出てきている。</li> <li>・食後のブラッシングサポートの際に飛沫リスクを避けるため、少人数ずつ水道に誘導しサポートしているため、平時に比べ時間がかかってしまいます。また職員は手袋・マスク着用で行っている。</li> <li>・歯みがき介助の際の手洗いや手指消息の徹底、うがいをした際の水道シンクの消毒清掃など、飛沫感染防止対策に努めている。</li> <li>・以前は、知的の方に昼食後の歯みがきを実施していたが、感染等の関係で自粛している。感染予防に沿った歯みがきのマニュアル等があれば助かります。</li> </ul>
	GH	・歯みがき介助中に咳込み、くしゃみ等による飛沫が以前より気になる。
摂食嚥下について	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔体操の一環として、食事前に歌をうたっていましたが、コロナ禍でしばらく中止していたら、むせりが多くなってきたように感じています。そのため、マスクの徹底とパーテーションを立てるなどを対策して、曲数を減らして歌唱を再開しましたが、声が出なくなってしまうたり、歌えなくなってしまう人が増えています。唾液の量も減っている様子で口腔乾燥もみられています。</li> </ul>
歯科検診や受診について	入所	・歯科検診、通院を控えているため口腔の健康状態の悪化が懸念される。
	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から、歯医者受診は嫌がる利用者さんもいるので、コロナの感染を気にして余計に行けない人もいます。</li> <li>・県外や遠方の歯科を受診される方の定期通院が困難な状況にあります。突発的な受診を希望される時近くの歯科にスムーズに通院出来るような連携が整備されると助かります。</li> </ul>
その他	通所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時マスクを着用しているため口元への注意がおろそかになった。</li> <li>・口腔ケア以前の意思疎通の問題があり、そちらの苦勞？が先にくるので、ADLの一環として歯みがきというものをしっかりと覚えてもらうことを課題としてとらえている。</li> <li>・現在事業所内では歯みがきなど口腔ケア、外部専門家による指導などは実施していないためコロナ禍において変化した点は特にはないが、今後新たにこうした取り組みを始めるとい点では、感染予防も踏まえると積極的には考えられない。</li> </ul>